

## ☆医療状況☆

私は公衆衛生という分野でマラウイの北部、ムジンバ県マニャムラという所のヘルスセンターに配属されています。今回はこのヘルスセンターについて書きます。

ヘルスセンターとは町の病院です。MA(メディカル・アシスタント)という医師の資格はないが、医師に準じて医師業務を行うスタッフ1名、看護師1名、HSA(ヘルスサーベイランスアシスタント)12名、ホスピタルアテンダント、グランドラバー(外来の手伝い:受付やマラリア検査、縫合などの処置)と一緒に働いています。ヘルスセンターには、毎日多くの外来患者さんや乳幼児健診・予防接種・妊婦検診・HIV/AIDSの治療・検査に来る方などが来られます。また、出産を待つ妊婦さんが待機しています。2床ですが入院スペースもあります。



入院スペース



妊婦さん待機スペース

雨季になるとマラリアの患者がたくさんいます。多い時は月に800人もマラリアにかかってしまっています。他に多いのは足や手の怪我。裸足で歩いたり、食事前以外で手を洗う習慣があまりない為、傷口からばい菌が入り悪くなる事も多い様子です。下痢や肺炎も多いです。しかし、人手不足なのでマラリア検査や縫合などの処置も基本的に無資格のスタッフが行います。縫合の方法はMA(メディカルアシスタント)から教えてもらい習得したようです。

また、HIV/AIDS患者も多く、マラウイ内での感染率は10%程度で、私の任地での新規感染者は月5~10人前後です。妊婦健診には夫婦で訪れHIVの検査を行うようにしています。

産科の担当は看護師です。月に40人前後の新生児が生まれます。日本と違い分娩台はありません。ベッドの上に自分で持ってきた布を敷き出産に挑みます。出産後もすぐに体を洗い着替えをし歩いてベッドまで移動し、出産した次の日には退院します。生まれたばかりの赤ちゃんも首が

据わっていないなどお構いなく片腕だけ持って運んだりもされます。また、妊婦さんと共に家族(主に母親)が同行し食事などを準備します。



産まれてすぐの体重測定

新生児の寝顔

ヘルスセンターで処方される薬は無料です。支援で他の国から薬が入ってくるので在庫切れも頻繁にあります。せっかく遠くから治療する為に薬を求めてヘルスセンターまで来ても、そのまま帰ってもらえない事も多くあります。また薬を配布しているのも日本のように薬剤師というわけにはいきません。こちらも人手が少ないので、無資格のスタッフが行います。薬も日本のようにシートになっていたり、1袋に1回分が入っているなんて事はありません。ボックスから何日分かを数えて取り出し袋か紙に包んで渡します。

今回のトゥンブカ語も医療系です。

**【Jasujya ni vichi?】** 症状は何ですか？

**【Singo kuwawa.】** のどが痛い。

**【Nikumba kutora mankhwara.】** 薬が欲しい。



最後にきらきらの笑顔♪

Tawonga chomeneh ☆